

事業の概況

■国内景気は緩やかな回復が続く

当第2四半期連結累計期間（2018年1月1日～2018年6月30日）におけるわが国経済は、輸出や個人消費が持ち直し雇用情勢も着実に改善してきている中で足踏みも見られましたが、全体としては緩やかな景気回復が続きました。このような経済状況にあって、通商問題の動向等に対する懸念から企業の業況判断はおおむね横ばいとなっていますが、企業収益は改善しており、また政府による働き方改革の推進やIT導入支援事業、パソコンの更新需要などにより国内企業のIT投資への関心も高く、企業のIT投資は底堅く推移しました。

企業収益は改善
IT投資は底堅く推移

■地域主導の運営体制を継続

以上のような環境において当社グループは、「オールフロントでソリューションを活かし、信頼に応える」を2018年度のスローガンに掲げ、地域主導の運営体制を継続しお客様との接点における活動の強化に努め、お客様の経営課題に対するソリューションを具体的に提案してきました。

お客様との接点で活動を強化
具体的なソリューション提案

■売上高、営業利益、経常利益、純利益

1～6月として過去最高

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,898億63百万円(前年同期比9.0%増)となりました。利益につきましては、営業利益271億78百万円(前年同期比1.3%増)、経常利益278億68百万円(前年同期比1.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益187億91百万円(前年同期比1.3%増)となりました。

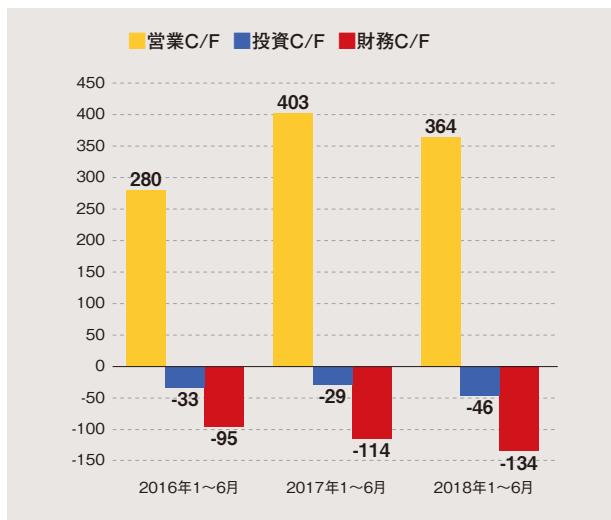
(単位：百万円)

	2017年1～6月	2018年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	357,585	389,863	+9.0%
営業利益	26,827	27,178	+1.3%
経常利益	27,387	27,868	+1.8%
純利益*	18,541	18,791	+1.3%

※親会社株主に帰属する純利益

■キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、「売上債権の増加額」が大きくなったことなどにより、前年同期に比べ38億67百万円減少し、364億65百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、「ソフトウェアの取得による支出」が増加したことなどにより、前年同期に比べ17億51百万円増加し、46億85百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ20億42百万円増加し、134億68百万円となりました。

四半期別の概況

■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)とも増収となり、増収トレンドを継続しました。

第1四半期(1～3月)売上高は、1,912億25百万円(前年同期比6.1%増)、第2四半期(4～6月)売上高は、1,986億37百万円(前年同期比12.0%増)となりました。

■経常利益の推移

経常利益は、第1四半期(1～3月)は微増でしたが、第2四半期(4～6月)では改善傾向となりました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、122億22百万円(前年同期比0.8%増)、第2四半期(4～6月)経常利益は、156億45百万円(前年同期比2.6%増)となりました。

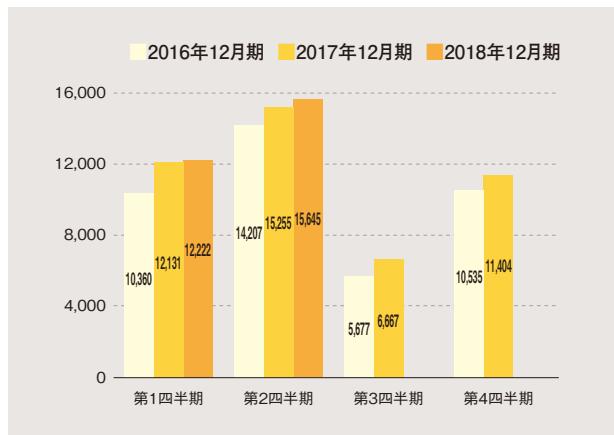
売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



事業セグメント別の概況

■システムインテグレーション事業

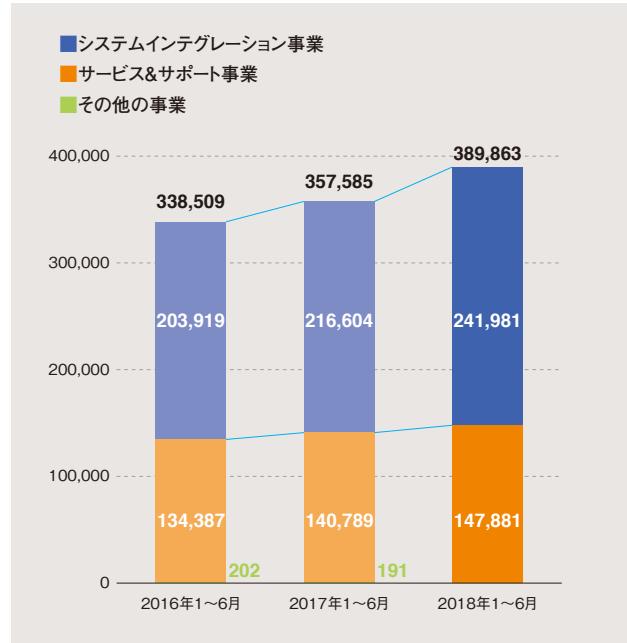
コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、パソコン等の更新需要を捉えパソコンやサーバーの販売台数、パッケージソフトの売上高を伸ばし、売上高は2,419億81百万円(前年同期比11.7%増)となりました。なお複写機の台数につきましては、低調に推移しました。

■サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレホンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」の競争力の強化に努め保守等と合わせて売上高を着実に伸ばし、売上高は1,478億81百万円(前年同期比5.0%増)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位：百万円)



注:連結子会社でありました大塚オートサービス株式会社は連結業績への影響度が低下したため、第1四半期より連結から除外しております。これに伴い、「その他の事業」区分は実績が無くなったため、当期間より記載しておりません。